

開催主旨

ラックカイガラムシが分泌する樹脂状物質「ラック」。正倉院に年代が判明している世界最古のスティックラック「紫鑲(しこう)」が収蔵されているのをはじめ、近年、高松塚古墳、正倉院宝物などにもラック由来色素「臙脂(えんじ)」の使用が確認されました。しかし、日本ではラックカイガラムシが育たないことで、その実体はほとんど知られていません。この講演会では、ラックの産地の様子とその利用方法についての解説と、関係資料の展示で、再生可能な天然素材であるラックの情報をみなさんと共有し、現代での新たな展開を目指します。

写真：左上から時計回りに

- ・ 蠟を分泌中のラック
- ・ 蜜を分泌中のラック
- ・ スティックラックの断面
- ・ インドのバトンラック

背景：インド、ランチの上空より

講演者略歴 (敬称略)

渡辺 弘之 (わたなべ・ひろゆき)

京都大学名誉教授(森林科学専攻)。農学博士。日本土壤動物学会会長(1996～2000、2004～2008)日本環境動物昆虫学会副会長(2000～2004)など歴任、現在、社叢学会副理事長、バイオマス産業社会ネットワーク理事、京都園芸倶楽部会長、ミミズ研究談話会会長など。インド、タイ、インドネシア、ラオスなどのラックの産地を調査し「カイガラムシが熱帯林を救う」(東海大学出版会、2003)他に執筆。

沓名 弘美 (くつな・ひろみ)

画家、絵画材料研究家。綿臙脂の再現、書画紙、線描等をテーマに絵画技法材料研究を行う。東京藝術大学大学院文化財保存学専攻(日本画)修了。四川大学(漢語)、中国美術学院(花鳥画)へ留学。ラック関連の実地調査：カム、アムドへの旅行(2005, 2006)。中国雲南省調査(2009)。ブータンでの染色実習および調査(2010)。中国薬種調査、インド調査(2012)。

久保 淳子 (くぼ・あつこ)

ブータンゆっくり勉強会「ヤクランド」主宰。大阪外国語大学デンマーク語学科卒業。旅行会社の添乗員として初めてブータンを訪問。首都ティンブーに2年間滞在後、「ヤクランド」を立ち上げ、ブータンの文化と自然にふれるオリジナルツアーを企画する傍ら、ブータンの伝統染色技法と染料植物を調査、国内各地でラック、アカネ等の染色ワークショップ、染織品展示会を開催している。

北川 美穂 (きたがわ・みほ)

工芸素材研究所主宰、保存修復家、工芸素材研究家、京都府立大学共同研究員。東京藝術大学大学院漆芸専攻文化財保存学専攻(工芸)修了。博士(文化財)。疑似漆技法ジャパニング技法の復元研究をイギリスで行う過程から塗料としてのラックの研究を始める。各国のラック製品と文献、ラックカイガラムシの生態と寄生樹の調査と、ラックを用いた様々な実験を行っている。

アクセス

会場：教養教育共同化施設 稲盛記念会館
1階 103号講義室
〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-5
京都府立大学下鴨キャンパス内

● JR京都駅、阪急烏丸駅から

地下鉄烏丸線北山駅下車 1番出口から南へ徒歩約7分

● 京阪出町柳駅から 市バス1「府立大学前」下車 北へ徒歩5分

● JR三条駅から 市バス206「府立大学前」下車 北へ徒歩5分

